

1 研究主題

情報社会に主体的に生きる力を育む教育の研究と実践
－教育の情報化の推進を通して－

2 教職員研修

(1) 大洲市教育研究所総会

- ① 日 時 平成26年4月23日(水)
- ② 場 所 大洲市民会館 大洲市立大洲小学校
- ③ 内 容
 - ア 役員選出
 - イ 研究主題について
 - ウ 活動内容について



(2) 情報教育主任会

- ① 日 時 平成26年8月11日(水)
- ② 場 所 大洲市立大洲北中学校
- ③ 内 容

ア 書画カメラと付属タブレット端末を使った操作研修

株式会社エルモから講師を招き、書画カメラと付属タブレットの有効な活用方法の実践研修を行った。

イ Net モラル (ソフトウェア) を利用した情報モラル研修

株式会社広教から講師を招き、近年問題化している情報モラルの取扱いについて、ソフトウェアを操作しながら実践研修を行った。

ウ 校務支援システムの改善要望アンケートの確認

さらに使いやすい校務支援システムを構築していくために、各校から出された意見を集約して、市教委へ提出する準備作業をおこなった。

エ 質疑応答

オ 情報交換



3 成果と課題

近年、愛教研の夏季実技研修の講座の中に、全会員を対象にした情報教育の研修を組み込んでおり、情報教育主任会としての研修活動が開催されていなかった。そこで、昨年より組織の活性化と指導力向上を目指し、情報教育主任を対象とした研修会を開催して各校職員に伝達するという形の実践研修を行うようにした。大洲市では、今年度より数年かけてコンピュータのリースアップに伴う更新がなされる予定であり、新しくなった付属機器やソフトウェアの操作研修を行うことで、授業実践に活用していくことができるのではないかと考え、今回の実技研修会(情報主任会)を行った。新たに購入されたハードウェアやソフトウェアの存在や利用価値を知らずに見過ごしてしまうことがないように、各校の情報主任に伝えられたことは、今後のICT活用能力の向上にも繋がっていくのではないと思われる。また、各小・中学校での情報機器の活用状況について情報交換も行うことができ、有意義な取組となった。

今後は、先進校の取組についての情報を得たり、さらなる指導技術の向上を目指すためにも有効な実技研修を行ったりする必要があると感じている。

1 研修会の経緯

平成22年度より、町サーバーの提供するCMSソフトによって各校でホームページを運営している。このCMSソフトは、教育センターが奨めるCMSとは異質なもので、HP構築上の手続きの煩雑さや制約が多く、コンピュータに手慣れた者でも、困惑することが多い。また、Webページに付加的な価値をつけるモジュールという概念がなく、テンプレートの用意数も極めて少ない。これらのことをまず、HP更新担当者は理解して、独自のHPの設計と制作をしていく必要がある。(現在は、テンプレート的なWebページを情報教育部会の主導で設けている。) さらに、HP更新担当者は、内子町HPの階層化に位置づけられた部分に各校のHPがあることを理解し、サブサイトとしてのHP構築・更新のノウハウを身に付けていく必要がある。特に、公開までの過程には、現在の制作進捗状況を把握しておき、次の手続きを踏むことが重要となる。これらの複雑で難解な操作や技能を身に付ける場として行政のHP担当者、教育委員会とタイアップして実技研修会を毎年2回実施してきた。

2 第1回及び第2回情報教育技術研修会

- (1) 期日 平成26年5月15日(木)、平成26年8月21日(木)
- (2) 会場 内子町立内子中学校
- (3) 研修内容

- ① Webページ作成方法・保守管理の確認(講師:町役場総務課職員、町学校教育課職員)
 - ・ 講師の方による基本的な操作方法の説明
 - ・ 質疑応答
- ② Webページの内容について
 - ・ 役場の方による内容の点検
 - ・ 各校への個別指導
- ③ Webページ作成上の注意
 - ・ 個別指導を受けての手直し
 - ・ 操作方法に関する個別の質疑応答
- ④ その他
 - ・ 次回研修会の確認



<研修会風景>

3 各校HP更新の容易性を目指しての活動

これまでのHP更新に関する実技研修会において、講師としてお手伝いいただいている教育委員会及び内子町総務課の方々には、思うように操作できないCMSソフトに悪戦苦闘する実態を把握していただいた。また、研修会での意見交換の場面では、学校現場がHP更新において思い描いているようなことが表現できないといったCMSソフトの制約に関する意見や改善を求める要望が毎回出されてきた。これらの要望は、講師の方々の範疇を超える内容となっているものが多く、即答を避け、後日業者に回答を求めては対応されてきた。

今年度、町HPの更新期に伴い、このHPを構築しているCMSソフト開発業者に直接、学校からの様々な声を届け、ソフト開発の見直しに繋げていくことができる委員会に関与することが可能となった。

4 成果と今後の課題

今年度も2回の研修会により、町CMSを利用したWebページ作成上の疑問点や操作上の問題について解消された参加者も多く、参加者からは有意義な会であったという感想や意見をいただいた。また、この研修会では、行政の方々に、学校現場がHP更新にいろいろと苦労している実態を理解していただくとともに、新しいバージョンのCMSでは、学校の負担軽減を実現できるCMSソフトであることと多彩なテンプレートの用意がなされるようCMSソフト業者へ要望として伝えることができた。

1 研究主題

教育の情報化を目指す学習指導の研究と実践

2 実践活動

(1) 市教育研究集会

ア 日 時 平成26年4月15日(火) 14:10～15:10

イ 場 所 八幡浜市立八代中学校

ウ 内 容

(ア) 役員選出 (イ) 今年度研究主題について

(ウ) 研究計画の作成

(2) 夏季実技研修会

ア 日 時 平成26年7月31日(木) 13:30～16:00

イ 場 所 八幡浜市立愛宕中学校

ウ 内 容

(ア) 情報モラルについての研修

- ・情報モラルの必要性
- ・携帯・スマートフォンについて
- ・SNSに関する書き込みの削除依頼について
- ・ネットモラルの重要性
- ・「事例で学ぶNetモラル」の効果的な活用方法・模擬授業
ワークシートの活用、ネットモラル検定等

(イ) 情報交換

- ・児童生徒への指導・支援に合わせて、保護者への啓発が重要である。

(3) 情報視聴覚機器を活用した学習の実践例「体育科」

インターネットの動画サイトを活用して、教師が模範演技をすることができないマット運動の技や、走り高跳びの模範となる動きなどを紹介した。また、学習中は、タブレットの連写ができるアプリを活用して、フォームの確認を行った。これにより、自分のフォームの課題を客観的に捉えることができた児童もいた。学習中に撮影した画像や動画は、技能面の評価をする際にも活用することができた。



3 成果と課題

今年度の研修は、「事例で学ぶNetモラル」のソフトを活用して、その効果的な活用方法を学んだ。児童生徒の視覚に訴える内容も多く含まれており、活用することにより効果的な指導が可能であることを実感した。

これらのソフトを活用しての指導が、情報・視聴覚部員の教員にとどまることなく、より多くの教員が活用できるように各校で研修をしていかなければならない。また、市内各小中学校には、このほかにも共通のソフトが多数導入されているので、今後積極的に活用されるよう啓発していく必要がある。

体育科においては、情報視聴覚機器を使うことにより、児童生徒の興味関心を高めるなど指導の幅が広がることが実感できた。しかし、まだまだ「効果的な活用」には至っていない。タブレット等を始めとする新しい情報機器の活用方法についても、今後さらに研修を進めていきたい。

西宇和支部

1 はじめに

西宇和支部は、統廃合により今年度は小学校7校・中学校3校の計10校で構成されている。学校は、細長い佐田岬半島に位置しているため、情報機器の利用が不可欠である。昨年度に引き続き、伊方町情報教育推進委員会とも連携しながら研修を進めている。また、各校では毎日ホームページの更新を行ったり、情報教育に関する校内研修を充実させたりして情報活用能力を高めているところである。

2 教職員研修会

(1) 第1回情報教育委員会

期日 4月15日
会場 伊方町立伊方中学校
参加者 情報教育主任・顧問 11名
内容 計画立案・役員審議・情報交換

(2) 第1回情報教育推進協議会

期日 5月20日
会場 伊方町立九町小学校
参加者 情報教育推進委員（兼情報教育委員）・顧問 14名
内容 情報機器整備について・グループウェアと校務支援システムについて・情報交換

(3) 第2回情報教育委員会

期日 8月25日
会場 伊方町立伊方中学校
参加者 情報教育主任・顧問 11名
内容 校務支援システム研修・タブレット端末活用研修・情報交換

(4) 情報機器活用研修会

期日 11月28日
会場 伊方町庁舎
参加者 情報教育主任・顧問 3名
内容 タブレット端末活用研修

3 研修会の内容・様子

今年度は、来年度から導入予定になっているタブレット端末を用いた実技研修を中心に行った。電子黒板と連携した模擬授業を受けたり、授業への取り入れ方について学んだりした。また、グループウェアや校務支援システムについての研修も行った。短い時間ではあったが、大変有意義な研修会となった。

4 今後の課題

来年度より、一部地区小・中学校にタブレット端末が導入される予定になっているが、タブレット端末を活用した授業についての研修がまだまだ不十分である。今後は、先進地視察等で、授業での効果的な活用方法についての実技研修を深めていく予定である。

1 研究主題

情報社会に主体的に生きる力を育む教育の研究と実践

－教育の情報化の推進を通して－

- (1) 高度情報通信社会に主体的に対応できる情報活用能力の育成
- (2) ICTを活用した学習指導の工夫・改善
- (3) 教員のICT活用指導力の向上

2 研修内容

- (1) 日 時 平成26年7月30日（水）9：00～11：45
- (2) 場 所 三瓶中学校コンピュータ室
- (3) 内 容

ア 講義「西予市公用パソコンについて」

講師 久保田温先生・国広達也氏

西予市情報セキュリティポリシーに基づいた学校現場での情報の管理と保護、およびその取扱いについて講義をしていただいた。コンピュータウイルスの侵入など具体的な事例をあげて、その対策などを研修した。



イ 実技研修「タブレット端末を使って」

講師 富士通より4名

未来の学校に向けたICTを活用したフューチャースクールの体験活動を行った。なかでもタブレット端末を使用した模擬授業では、先生が生徒役になり小学校の教材で電子黒板と連動させながら授業を進めた。



ウ 西予市コンピュータネットワークについて意見交換

西予市内では、各校に電子黒板が設置されているが、使用方法などにはかなりの差がある。さらに活用していくためには、できれば電子黒板などの数を増やし、各教室への設置が必要であるという意見があった。



3 今後の課題

昨年度の各校の電子黒板等の事例発表をもとに、今回のタブレット端末を利用した研修を行った。今後も継続した研修を企画・運営していきたい。情報機器の進歩にともなって、教育のあらゆる場面で活用されるようになってきている。一人一人の教職員がさらなる研修を積み重ねて、子どもたちに指導していかなくてはならないと思う。その際、それぞれのよさと問題点をしっかり把握して研修を積んでいかなければいけない。また、ハード面について情報委員研修会を中心として意見を取りまとめ、市教育委員会へコンピュータネットワーク環境など学校現場の要望を伝えていきたい。

1 はじめに

宇和島市では、昨年度、全中学校で生徒用コンピュータの入替えが行われたが、それに引き続き、今年8月、全小学校で児童用コンピュータの入替えが行われ、新たにタブレット PC や電子黒板機能付き単焦点型プロジェクタ等が導入された。そこで、宇和島市情報教育研究委員会では、新しく導入された機器についての研修会等を企画し、操作方法の伝達や活用方法の紹介に努めた。

2 教職員研修について

(1) 夏季実技研修会

- ① 日時 平成 26 年 8 月 9 日 (火) 13:00~16:30
- ② 場所 宇和島市立吉田小学校 パソコン室
- ③ 対象 宇和島市小中学校 情報教育主任
- ④ 内容 13:00~14:00 研修 1 タブレット PC 及び周辺機器の操作について
14:00~15:30 研修 2 スカイメニューclass の操作について
15:30~16:00 研修 3 ジャストスマイルの操作方法について



【導入されたタブレット PC】

今回の研修会では、タブレット PC の基本操作、無線 LAN への接続方法、インストールされているソフトウェアの基本的な操作方法の説明が行われた。また、参加した情報教育主任は、研修した内容を各校へ持ち帰り、校内研修等を通して全教員への伝達を行った。

(2) タブレット PC 活用講習会

- ① 日時 (第 1 回) 平成 26 年 11 月 25 日 (火) 14:00~16:30
(第 2 回) 平成 26 年 11 月 27 日 (木) 14:00~16:30
- ② 場所 (第 1 回) 宇和島市立明倫小学校 パソコン室
(第 2 回) 宇和島市立吉田小学校 パソコン室
- ③ 対象 宇和島市の小学校教員で受講を希望する者
- ④ 内容 14:00~14:45 研修 1 手書き電子ドリルの活用について
14:45~15:30 研修 2 スカイメニューclass の活用について
15:30~16:15 研修 3 ジャストスマイルの活用について



【明倫小学校での講習会の様子】

今回の講習会は 2 会場で行われ、合わせて 63 名の教員が参加した。上記の夏季実技研修会では、主に機器の操作方法についての説明が行われたが、今回は、「授業でどのように活用できるか」という点を中心となった。講習は、富士通株式会社のインストラクターによって進められ、模擬授業や実践事例の紹介等が行われた。

3 おわりに

宇和島市情報教育研究委員会では、「パソコン室から飛びだそう」を合言葉に、タブレット PC の導入へ向けて関係諸機関へ働き掛けを行ってきたが、今回、無事に導入が完了し、これからが情報教育推進の正念場となる。児童の学力向上に向け、今後は、タブレット PC を始めとする機器の活用方法の研究、教員の ICT 活用指導力向上に向けた研修会の充実に努めたい。

1 はじめに

北宇和支部では、研究目標を「情報社会に主体的に生きる力を育む教育の研究と実践－教育の情報化の推進を通して－」とし、主に各町での活動を行っている。今年度は、新規導入されたタブレット端末の積極的活用についてと、学力向上推進とICTの活用に関する研修会などを積極的に行った。

2 情報教育委員会の活動について

(1) 第1回情報教育主任委員研修会

- ① 研究推進目標の立案
- ② 研究内容・推進計画の審議

(2) 第2回情報教育主任委員研修会

- ① 情報教育研修会への参加
- ② 情報交換

(3) ICT活用研修会

- ① ICTを活用した授業研究会
- ② タブレット端末の使い方に関する研修会

(4) 第3回情報教育主任委員研修会

- ① 今年度のまとめと反省
- ② 来年への引継ぎ
- ③ 情報交換

3 各校の情報教育への取組

本年度も各町単位での活動が中心となり、それぞれの学校が校内研修等に取り組んだ。

ICT活用研修会では、講師を招いてICTを活用した授業を実践していただき、これからの授業づくりに向けての研修を深めることができた。

また、タブレット端末の導入に伴い、タブレット端末を活用した授業づくりについて、基本操作を習得するとともに、具体的な授業展開についての実践力を高めるための研修会を行い、今後の活用に向け大変参考にすることができた。

4 本年度の反省と今後の課題

限られた予算の中で、新しいICT機器の各校への導入が徐々に進められてきている。特にタブレット端末の新規導入に伴い、その活用に関する全体研修や個人での伝達等を行った結果、北宇和郡の小・中学校でのICTを活用した授業への意識は高まってきている。重要なのは、実際に活用し、授業実践に生かしていくことである。そのためにも、日常的に情報教育の視点を取り入れ、手段としてのICT活用をしていくことがこれからの課題であると考えられる。

南宇和支部

1 はじめに

南宇和支部では、各校の情報教育主任を中心に情報教育委員会を構成し、「情報社会に主体的に生きる力を育む教育の研究と実践 ―教育の情報化の推進を通して―」を主題に研修を実施した。

2 教職員研修について

(1) 郡情報教育委員会

- ① 日時 平成 26 年 4 月 23 日 (水) 13 : 30 ~ 16 : 15
- ② 場所 愛南町立城辺中学校
- ③ 内容
 - ア 役員の選出
 - イ 本年度の研究主題の検討・決定
 - ウ 研究計画
 - (ア) 期日 夏季休業中
 - (イ) 内容 実技研修 (校務支援システム「愛サポ」)

(2) 情報教育実技研修会

平成 25 年度から南宇和郡の小・中学校では、校務支援システムが稼働している。業者による実技研修を始め、管理職や情報教育主任を通しての校内研修等でその操作や機能についての周知が図られ、愛南町の教職員間で定着しつつある。しかし、稼働してから 2 年目となる今年度になっても些細な疑問で操作に戸惑ったり、情報教育主任に教職員からのシステムに関する質問が集中したときに対応しきれなかったりすることがあった。そこで、本委員会の会員である各校の情報教育主任がより校務支援システムについて熟知し、校内でのサポートができるように研修を行った。今年度の研修では、講師にアクセス権限フリーの研修用校務支援システムを準備していただき、普段の校務の中で情報教育主任が触れることが希薄な機能やその操作方法について実技研修を行った。

- ① 日時 平成 26 年 8 月 7 日 (木) 14 : 00 ~ 16 : 30
- ② 場所 愛南町立平城小学校 参加人数 14 名
- ③ 講師 (株) デンケン 大下正徳 氏
- ④ 内容
 - ア 愛サポ (校務支援システム) の実技研修
 - 管理機能
 - メイン画面のカスタマイズ
 - イ 質疑応答
 - ウ 情報交換



3 成果と課題

実技研修で、各校の情報教育主任は管理機能に触れることで、これまで以上に校務支援システムについての知識や技能を深めることができた。システムの全体を把握することが重要であることを実感した。校務支援システムはまだ開発途中である。平成 27 年度からは保健関係等の新機能が搭載される予定である。そのため、今後も校務支援システムについての実技研修は積極的に行っていく必要があると考える。また、昨今の情報教育を取り巻く環境は急激に変化している。校務支援システムのクラウド化や授業における Wi-Fi 通信によるタブレット端末の利用等、技術の進歩が教職員の ICT に関する知識や技能を超えることも少なくない。今後、情報教育委員会の会員が率先して最新の情報に関心をもち、研修を深め、それぞれの学校において研修を推進していくことが必要であると考えられる。

附属支部

附属支部は、附属小学校・附属中学校でそれぞれ情報教育の研究及び研修を行っている。ここでは、主に附属小学校の取組を紹介する。

1 本校（附属小学校）のICT環境について

本校では、本年度、パソコン室に42台の新しいコンピュータが導入された。corei7、Windows8、タッチパネル機能の付いた最新機種である。ソフトウェアは、自由にソフトを入れることはできないため、今のところ、ドリル学習ソフト（ランドセル）、一太郎スマイル、マイクロソフトオフィス、スカイメニューのみである。今後は、教職員から希望をとり、映像編集ソフトや3Dモデリングソフト等も導入していくつもりである。iPad関連では、児童用にiPad2が20台、教職員一人一人にiPad3が配付されている。各教室にはMac-miniが50インチモニタに接続されており、特別教室では、appleTVが接続されている。据え置き型の電子黒板はないが、移動式（極短焦点）のものが4台と専用のホワイトボード兼スクリーンが4台ある。ネット回線も光であり、各教室とも高速接続が可能になっている。Wi-Fiルータも設置しているが、昨年度からはeunetにも接続できるようになった。

2 授業でのICT活用について

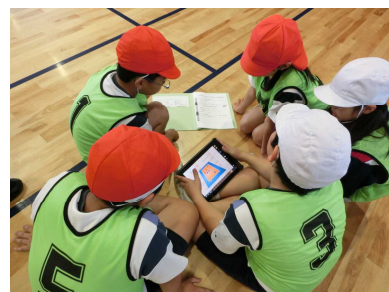
新しく導入されたコンピュータを使って、調べ学習や発表資料作り、計算や漢字練習、タイピング練習、写真編集等が行われている。情報担当の講師がおり、コンピュータの基本的な使い方について指導している。以下には、各教科の学習の中でのICTの活用事例について紹介する。

(1) 音楽でのiPad活用について

作曲の授業にiPadを使い、入力した音をその場で聴いて確かめながら曲作りをしたり、友達と互いに聴き合い、より良い曲へと工夫をしたりした。子ども達の思いや願い、イメージに即応できることで、高い興味関心を引き出すことができた。また、教師はiPadの中に授業で使う曲を入れ、appleTV経由でスピーカーから音を出すことで、CDを出し入れする手間や教師の移動の煩わしさ、時間のロスが解消されている。

(2) 図画工作科でのiPad活用について

本校ではかねてより、無線書画カメラとしてiPadを活用している。iPhoneやiPadのカメラ映像をappleTV経由でモニターに映し出すことによって、視覚に訴える評価と指導が可能になっている。



iPadで作戦を立てよう

(3) 体育科でのiPad活用について

友達の試技や話合いのときの様子を子ども自身がiPadで撮影し、授業後の自己評価や教師の評価に役立てている。また、本年度は、球技の作戦をiPad上で立て、その作戦に合わせて動くという新しい試みも行われた。授業の中で、子どもたちが機器を自然に活用する姿に「今」を感じた。

(4) 外国語の授業でのICTの活用について

Skypeを使って国際交流を行っている。昨年度の研究大会では、オーストラリアの動物園と回線をつなぎ、動物の面白い秘密などについてお話して頂いたり、こちらから質問をしたりした。

相手の顔を見ながら交信できるということは、子どもによい意味での緊張感とリアル感、満足感をもたらしていると感じた。



動物のお話面白いな！

3 今後の課題

(1) 教材用アプリケーションの選択とその効果的な活用の在り方を探る。

(2) より多くの教科・授業でのICTの活用と教職員の情報リテラシーの向上を図る。

(3) 情報モラルやセキュリティに関する研修（教師向け、児童向け）の充実を図る。